



各 位

2017年11月8日

上場会社名 古河機械金属株式会社
 代表者 代表取締役社長 宮川 尚久
 (コード番号 5715)
 問合せ先責任者 経理部長 三影 晃
 (TEL 03-3212-7021)

連結業績予想値と実績値との差異および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2017年5月11日に公表いたしました2018年3月期第2四半期累計期間（2017年4月1日～2017年9月30日）の連結業績予想値と実績値において、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、2017年5月11日に公表いたしました2018年3月期通期連結業績予想値を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想値と実績値との差異

2018年3月期第2四半期累計連結業績予想値と実績値との差異（2017年4月1日～2017年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A) (2017年5月11日発表)	百万円 76,000	百万円 2,900	百万円 3,000	百万円 1,500	円 銭 37.09
今回発表実績(B)	80,102	3,943	4,747	2,486	61.54
増減額(B - A)	4,102	1,043	1,747	986	
増減率(%)	5.4%	36.0%	58.2%	65.7%	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2017年3月期第2四半期)	70,220	2,898	1,774	1,098	27.18

(注) 2017年10月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しています。これに伴い、1株当たり四半期純利益につきましては、株式併合の影響を考慮しています。

2. 連結業績予想との差異の理由

連結売上高は、主として電気銅海外相場の上昇、円安の進行により金属部門で増収となり、営業利益も増益となったことから業績予想値を上回りました。また、営業利益の増益に加え、為替差益の発生により、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が予想を上回り差異が生じたものです。

3. 通期業績予想の修正

2018年3月期通期連結業績予想値の修正（2017年4月1日～2018年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A) (2017年5月11日発表)	百万円 160,000	百万円 7,000	百万円 7,000	百万円 4,500	円 銭 111.26
今回修正予想(B)	165,000	8,000	8,500	5,000	123.75
増減額(B - A)	5,000	1,000	1,500	500	
増減率(%)	3.1%	14.3%	21.4%	11.1%	
(ご参考)前期実績 (2017年3月期)	149,829	6,545	7,202	4,254	105.29

(注) 2017年10月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しています。これに伴い、1株当たり当期純利益につきましては、株式併合の影響を考慮しています。

4. 修正の理由

通期の連結業績予想につきましては、前回（2017年5月11日）発表の業績予想における前提を、銅価5,500米ドル/トンとしていましたが、直近の動向を考慮し、下期では、銅価を6,500米ドル/トンへ変更しました。金属部門では、銅価の上昇により増収となり、ロックドリル部門では、主として、国内向けは、トンネルドリルジャンボの出荷増、海外では欧米市場が好調で増収となる見込みです。また、産業機械部門では、主として、ベルトコンベヤ大型案件の工事遅延による出来高減により減収となる見込みです。その結果、通期の売上高を上方修正し、それに伴い、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、それぞれ上方修正しています。

(注) 本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上